

仲泊公民館の移り変わり

広報おんな134号

(1991年8月号)の

表紙『なつかしき日の公民館』では、かつての仲泊公民館の様子が掲載されています。仲泊公民館のこれまでの移り変わりを見てみましょう。



アシビナーでの公民館落成式(1958年)

仲泊公民館は1958(昭和33)年12月に完成しました。同年12月24日付けの琉球新報には「仲泊区では今度終戦直後から区民の願いであった公民館が落成、25日に落成祝賀会を催すことになっている。公民館は総坪数32坪のコンクリート建てで、約2600ドルの工費がかかっている。これは区民が終戦直後からコツコツと積み立ててきたもので、13年前のユメが実現、区民の



広報おんな134号



公民館落成式でのウシデーク集合写真

喜びも大きい。21日には婦人たちのウシデークや青年たちの村しばいで祝賀会の前景気をつけた」とあります。盛大な落成式はアシビナーで行われ、村内外から数百人の関係者が集まり、賑わった様子が写真からうかがえます。

本土復帰を経た1973(昭和48)年9月27日には、公民館2階ホールが完成しました。広報おんな8号(同年12月号)では「この公民館建設資金には、恩納村で最後の高等弁務官資金補助金も含まれて、その交付額9,500ドルで、総工費は約2000万円に建物総面積は、2300平方メートル(約69坪)ホールには、324人の集客が出来る。」とあります。高等弁務官資金とは、米国統治下の沖縄で1960(昭和35)年から、市町村事業援助のために設けられた特別資金で、仲泊公民館建設のみならず村内各所で利用されました。沖縄県公文書館には、仲泊公民館への資金贈呈式1972(昭和47)年1月12日の様子を写した写真も残っています。11月10日には落成式並びに祝賀会が行われ、余興には仲泊独特の民俗芸能である南又島(フェーヌシマー)や舞踊などのたくさんのお出し物でとても賑わったようです。